

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,683	t-CO <sub>2</sub>
①を除外 （二酸化炭素換算） 温室効果ガス排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	③メタン		t-CO <sub>2</sub>
	④一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦六ふつ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑧三ふつ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		3,683	t-CO <sub>2</sub>

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総排出量		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>	

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	原単位当たりの 排出量	0.009435	t-CO <sub>2</sub> / 千㎡時	0.009152	t-CO <sub>2</sub> / 千㎡時	3.0

(2) 目標設定の考え方

温室効果ガスの排出を1年間に1%ずつ、3年間で3%削減する。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。  
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。  
 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

指針第 1 号様式

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギーの 行動実践  冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷暖房温度の適正化継続</li> <li>・無駄な運転時間の排除</li> <li>・機器更新に当たっては、省エネ性能を重視して選定</li> </ul>	夏季：28℃ 冬季：22℃
省エネルギーの 行動実践  照 明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不必要な照明の消灯徹底の継続</li> <li>・照明一部間引きの実施</li> <li>・LED照明設備への切替</li> </ul>	
省エネルギーの 行動実践  OA機器 自動販売機など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OA機器の省電力モードへの移行時間の見直し</li> <li>・機器更新に当たっては、省エネ性能を重視して選定</li> </ul>	
省エネルギーの 行動実践  エレベーター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間、休日の運転台数削減の継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台数の1/3～1/2を停止</li> </ul>

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	40 %

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

C02フリー電力の購入を2025年度より使用電力量に対して年10%ずつ積み増ししていく
---

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

--